

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：10106

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00769

研究課題名(和文) The Effect of English-Speaking Role Models on the Motivation to Learn English of Japanese University Students

研究課題名(英文) The Effect of English-Speaking Role Models on the Motivation to Learn English of Japanese University Students

研究代表者

Claro Jennifer (Claro, Jennifer)

北見工業大学・工学部・准教授

研究者番号：20455710

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：主な成果は、L2のモチベーションに対するピアモデリングの重要性を詳細に説明したことです。有能なロールモデルは、対処戦略と自己効力感(自信に似たもの)を示します。学生はこれらのロールモデルから学び、より優れた英語話者になるために自分の行動を適応させます。この記事では、マイクロ分析を使用して、識別と行動の変化のプロセスを詳しく説明しました。また、この記事では、有能なロールモデルとの識別が理想的なL2の自己に与える変革効果も示しました。したがって、あらゆる言語学習プログラムの不可欠な要素は、ロールモデル、特にピアモデルです。

研究成果の学術的意義や社会的意義

Japanese students learning English have often been found to be lacking motivation. One reason is the lack of effective role models. My research shows the positive effect of role models. Students need to see high level ability as well as the behaviours that lead to that high ability.

研究成果の概要(英文)：A major result was the detailing of the importance of peer modeling on L2 motivation. Capable role models demonstrate coping strategies and self-efficacy (similar to self-confidence). Students learn from these role models and adapt their own behaviours in an attempt to become better English speakers. The article detailed the identification and behavioural changes process by using microanalysis. The article also showed the transformative effect that identification with capable role models has on the ideal L2 self. Therefore, an essential element of any language learning program is role models, in particular, peer models.

研究分野：language learning motivation

キーワード：motivation peer model ideal L2 self language learning self-efficacy L2 stress

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

まず、学業成績や粘り強さなど、人生の多くの分野で肯定的な結果につながる個人的なリソースとしての自己効力感に関する文献を探ります。モデル化された自己効力感とは、Bandura ら (1982) による 1 つの研究の文脈で説明され、次に Lazarus と Folkman (1984) のストレスと対処に関するトランザクション理論が説明されます。次に、ストレスの課題評価と脅威評価、およびこれらの評価における自己効力感の役割に焦点を当てます。ここでは、自己効力感が課題評価にどのように貢献し、これらの評価がどのようにパフォーマンスの向上につながるかを探ります。次のセクションでは、可能自己、自己効力感、および自己制御の間のつながりについて説明し、Higgins (1997, 1998) の自己制御の促進形式について説明します。クラスメートのリソースとして、肯定的な態度と有用な戦略をモデル化する仲間モデルがどのように機能するか、そしてこれが学生の自己効力感とパフォーマンスに与える影響について検討します。

2. 研究の目的

本研究の目的は、外国人と英語でコミュニケーションをとるというストレスの多い活動に対処する日本の大学生の自己制御を説明することにより、L2 モチベーション研究の知識基盤に貢献し、それを拡大することです。本研究では、自己効力感とストレスの関係、および仲間モデルによる自己効力感によって、L2 コミュニケーションのストレスに対する学生の評価が脅威から課題へとどのように変化するかを探ります。

3. 研究の方法

私は、ICE プロジェクトと呼ばれるオンライン異文化交流 (下記参照) の前後で、意図された学習努力 (Dörnyei & Taguchi, 2010) で表される学生のモチベーションを測定しました。データは、データの使用について同意し、インタビューにも同意した日本の大学生から収集されました。

すべての尺度と項目は、Dörnyei と Taguchi (2010) の L2 モチベーション自己システム (L2MSS) 測定器 (日本語版) の一部であり、学習前と学習後に測定されました。インタビューは半構造化されており、著者が日本語で実施し、その後、バイリンガルの日本の大学スタッフが翻訳しました。

4. 研究成果

ある生徒は、粘り強いクラスメートに強く共感し、彼らのようになりたいと思った。彼女は、通常の英語の授業活動の一環として、また ICE プロジェクトで、日本人のクラスメートが英語でお互いに話しているのを見て、カナダのパートナーと英語で話している自分たちのビデオをたくさん録画した。彼女は、特に 2 つの態度が、仲間のモデルにとって大きな助けになっていることに気づいた。それは、一生懸命努力し、失敗を恐れないことだ。失敗とは、間違いを犯すこと、理解しないこと、英語でうまくコミュニケーションできないことを意味する。一生懸命努力し、失敗を恐れないことで、より有能なクラスメートは、限られた英語でコミュニケーションをとることができた。この生徒はこれらの態度を内面化し、インタビューで「私も失敗を恐れずに一生懸命努力できたら、大丈夫だと思った」と語った。彼女はインタビューで、これらの態度の両方を何度も言及し、しばしば「勇敢」や「挑戦」という言葉を添えていた。

仲間がモデルにした対処戦略を使用することで、この生徒は、自分が実際に英語でコミュニケーションをとることができることを発見した。仲間と自分の成績にほとんど差がなかったため、彼女は英語で効果的にコミュニケーションできるようになるという短期的な目標を達成しました。その後、彼女は海外で生活し働くという新たな長期目標を設定し、現実の自分と理想の自分との間に積極的な差をつけました。この目標を達成するには、高い英語力が必要です。インタビュー当時、彼女はまだ毎日英語を勉強しており、大学の研究交換でノルウェーに

行く予定でした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Jennifer Claro	4. 巻 3
2. 論文標題 Effects of the Internalization of Peer-Modeled Self-efficacy on Coping with L2 Communication Stress	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal for the Psychology of Language Learning	6. 最初と最後の頁 63-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.52598/jpl11/3/1/4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Jennifer Claro	4. 巻 1
2. 論文標題 Moodle: An Effective LMS for Online Classes	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Proceedings of the 70th Tohoku/Hokkaido Area University Higher/Common Education Workshop	6. 最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Jennifer Claro
2. 発表標題 Moodle: An Effective LMS for Online Classes
3. 学会等名 70th Tohoku/Hokkaido Area University Higher/Common Education Workshop
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------